

浜名港プレジャーボート係留施設指定管理者評価委員会会議録

1 開催日時 令和7年2月14日（金）13:15～14:30

2 開催場所 静岡県浜松総合庁舎7階 701会議室

3 出席者

<評価委員会委員>

氏名	所属・役職
いづか たかし 飯塚 隆	静岡県中小企業団体中央会 西部事務所長
おおし まさひろ 大石 真裕	一般財団法人静岡経済研究所 主席研究員
かど はるひこ 門 春彦	一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会 救助事業部長
こばやし ひろゆき 小林 宏行	海事代理士小林事務所 海事代理士
たかせ すすむ 高瀬 進	静岡県漁業協同組合連合会 専務理事

※敬称略、五十音順

<事務局（港湾企画課）>

市野課長、渡邊班長、荒木

<関係者（浜松土木事務所維持管理課）>

平野主幹

4 会長選任

評価委員会委員の互選により、高瀬委員が会長として選任され、会長は副会長に大石委員を指名した。

5 会議の内容

- ・指定管理者及び委員の主な発言要旨を記載している。
- ・発言者は特定しておらず、会長は会長職としての発言のみ特定している。
- ・発言者は次のとおり記載する。

会長：会、委員：委、指定管理者：指、事務局：事

<指定管理者ヒアリング>

指 業務報告（20 分間）

○以下質疑応答

委 事故発生時の対応に関して、何か事故は起きたのか。

指 令和6年度は特に事故の発生はなかった。

委 今年度において、不法行為や不法係留はあったのか。

指 不法係留についてはある状況。基本的には開放されている施設のため、かなりしっかり見ていないと勝手に係留されてしまうことはある。毎年1回他のマリーナと併せてどこのブースにどの船が留められているのか調査を行い、該当があったため、浜松土木事務所及び浜名漁協と連携し、適切な利用を促した。現状は解決している。

委 船の係留管理において、転覆という話があったが、その件数は何件だったのか。また、カキ殻の除去啓発についてはどのようなことをしているのか。

指 船の傾きは何も処置をしないと沈んでしまうため、件数を厳密には把握していないが、舞阪 PBS 内において沈没は1件、傾きについては20件から30件くらいだったと承知している。啓発については、施設を巡回している管理人が、利用者にお会いしたタイミングでカキ殻の付着が最近増えているためにそぎ落としを促すアナウンスをしてもらっている。また、利用者アンケートの案内をする際に係留杭に付着しているものを除去するようお知らせをしている。

委 船舶保険の加入率はどのような状況か。

指 舞阪 PBS に関しては約8割の方に加入いただけている。中には加入を避けている利用者もいるが、利用申込の際に未加入の方については加入案内を送付することでお知らせはしている状況。

委 修繕費について、小規模修繕の内容はどのようなことか。

指 杭の打ち増しや打ち替えがほとんど。異常気象や災害などもあるためその有無によって年度ごとに波がある。

委 アサリが全く取れない状況が続いているが、指定管理者にそれに関する問合せはあるのか。

指 なんのために船を持っているかという話の中で、自由に取れていた過去からすると、このようなことが続くのであれば船を手放すといった話を聞くことはある。

委 利用者の減少について、協会関係で何かお話しできることがあるか。
指 マリーナ協会という組織があり、全体の集まりに参加した。かなり地域差があり、伊豆半島の東側である熱海や伊東においては大きな船を中心に何ヶ月も待つような混み状況だそう。逆に浜名湖は経営的に楽じゃないような印象を受けた。静岡県内の船の多い少ないには差があることをその時に感じた。

委 全国的にみると、各地の漁港において専従者が減少している状況。収入を生み出すためにプレジャーボートの受入等にも対応している漁協があつたりする。関西ではそれが十分に発展しており、漁港の中にヨットやプレジャーボートが入っている。なぜ関西なのかまでは不明だが、やはりレジャーの楽しさを伝えていくことが大事なのではないかと思う。イベントの開催もそれに寄与すると考えられる。

委 港の利用という観点で行くと、漁港においては国施策の「海業」という取り組みがあり、漁協と民間企業が連携し釣りを中心とした人の呼び込みをするというもの。レジャーという観点からすると、利用のハードルは低くなっている。ただ、漁協の方々の考えは、食堂や直売所というのが主であるため、全体を含めての活用という観点から、県の他部局との連携について力を入れる動きにはなっている。

委 国土交通省の方で「海の駅」というものがある。30年以上前からのもので、だいぶ全国に浸透してきた。最近では、漁協がらみで海の駅を作って利用者の拡大につなげるというのも1つの方法である。

<委員講評>

委 浜名湖財団さんは昔から対応してくれているため、慣れているという
ことが大きい。当初目的の放置艇の解消という部分においても十分
に達成してくれている。今までは、利用者を増やすことを議論し
ていたが、現状を考えると利用者の維持を考えていくことの方が難
しくなっている。利用者のアンケートをみると、釣りの方が大多数
を占めているため、釣り関連の情報を周知できる新しい取り組みが
鍵になってくると思う。

委 民間を圧迫しない程度の範囲で、レンタルボートを入り口とした、
釣り初心者向けの事業運営であったり新たな取り組みを今後検討し
ていく必要がある。

<採点・集計>

会 配点合計 82 点、総合評価は「良：評価できる」となった。